

## 7. その他 \*見学、及び、依頼に基づく対外活動を掲載。

### ●見学

- ・こども芸術学科 教員1名・学生2名 4月19日(金)
- ・関西大学 学生1名 4月21日(日)
- ・山中比叡平こども図書館 スタッフ1名 8月2日(金)
- ・京都市国際交流会館 職員1名 8月8日(木)
- ・津市よみかせボランティアグループ 6名 8月23日(金)
- ・修学院第二小学校 児童5名・教員2名 10月31日(木)
- ・こども芸術学科 教員1名・大阪保育福祉専門学校 教員1名  
2月6日(木)
- ・日本メキシコ学院 スタッフ2名 2月7日(金)

### ●取材

- ・招き猫美術館 学芸員1名 8月30日(金)



### 編集後記

・私が着任した当初は絵本の知識も多くなく、レファレンスにも自信がありませんでした。しばらく経った頃、年中の女の子が私のおすすめした本をとて気に入りくれたようで、家で何回も繰り返し読んでいたそうです。最終的にはお気に入りの1冊となり購入されたと聞きました。私のおすすめした本が心に残ってくれたことが嬉しかったです。これからも子どもたちに素敵な本を届けたいです。(大矢)

・2019年12月に「京都科学読み物研究会」の島崎さんによるピッコリーでの「ブックトークの時間」が200回になりました。長年にわたり活動をしていただいたことに感謝し、子どもたちよりお礼の言葉を贈らせていただきました。ピッコリーは地域の方やボランティアの方々のご協力で支えられています。これからもボランティアの方々の協力をいただき本と親子をつなぐ場所でありたいと思います。(村瀬)

## 子どもの泉

子どもの泉 第42号  
2020年10月1日発行

京都芸術大学  
芸術文化情報センター  
ピッコリー

〒606-8271  
京都市左京区北白川瓜生山2-116  
TEL: 075-791-8013  
FAX: 075-791-3318  
<http://www.piccoli.jp/>

### 「においを嗅ぐ。口に入れる。」

においを嗅ぐ。口に入れる。背に嘔みつく。鼻水のついた手で触り、カレーのついた口を擦り付ける。棚からひっぱり落としてその音を愉しむ。床に絵本を山のように敷き詰め、足の裏でその不安定な質感を確かめる。ゆっくりと破る。ちくわを挟む。指を挟む。投げる。自分の足に落ちる。素早くめくり続ける。手で押さえて読めなくする。前のページに戻ろうとする。積木遊びの台にする。すべり台の上から絵本を滑らせ自分も一緒になって滑る。開いたまま立てて「蝶々蝶々」と見せてくる。消防車が載っているページにまたがり「ウーカンカン」と雄叫びをあげる。ママが大切にしている絵本を「はい、どうぞ。」と持ってくる。絵本と一緒に風呂に入る。毎晩枕元へ持って行く。朝起きるとほっぺに絵本の痕が残っている。隣で寝ている父の頭に絵本を突き刺す。

我が家の3歳の娘と2歳になる息子を見ながら、僕は絵本と子どもがどうやって出会い、その関係を育んでいくのかを知ることができた。こういった子どもと絵本とのやりとりと、人と人が友情関係を育むことを置き換えてみると、なかなかハードな試行錯誤にも見えるけど、当の本人たちは全身と五感をフルに使い大真面目に絵本との距離を測ろうとしている。大人にとったら絵本は絵本だけれども、子どもにとったら、そこだけにどまるつもりが毛頭ないことを理解できる。そういったやりとりを経て、子どもはそれがいわゆる絵本であることを了解し、その世界にどっぷりと浸っていくことになる。

たとえば、植物学者は、僕たちがハイキングなどで歩く山道の、10メートルくらいの道のりを、1時間でも2時間でもかけて楽しみながら歩くと聞いたことがある。僕たちが当たり前だと思って見過ごし目に止めないような物事の中に、無限に疑問やワクワクを見つけていることができるのだろう。ほんのわずかな期間ではあるが、子どもが絵本と出会い、ゆっくりと徐々に親しくなる過程にも、その子ならではのドキドキとワクワクに満ちた不思議な冒険物語が夏草のように生えているのだろう。そして、大人と同じようにそれが絵本であることを知ってしまうと、もうそのたくましい物語へは二度と後戻りはできないのかもしれない。そう考えると、僕は子どもが絵本と出会ってこの物語を少しでも長い時間味わってもらいたい心持ちになる。じっと見守り、大人が先回りしてその物語を壊してしまわないように。

でも現実には難しく、理解不能な子どもと絵本とのやりとりをみて、時には表情が曇り、眉間にはシワがよることもある。そして「なんでそうなるのー」とか「おいおい」「コラコラ」という言葉が口から漏れてしまうことも。そんな時は、自責の念にかられながら赤塚不二夫の「これでいいのだ」というフレーズを思い出す。我が家の子育てはこの言葉に何度も救われている。

### 彦坂 敏昭

(ひこさか としあき)

1983年愛知県生まれ。京都芸術大学こども芸術学科講師。

記憶に残っている絵本は「100万回生きたねこ(作・絵:佐野洋子)」。祖父がよく読んでくれました。娘が生まれるまで読み返すことはありませんでしたが、今でも書店や図書館で表紙の猫に会うたびに「久しぶり、元気?」と心の中で声をかけています。

## 2019 年度活動報告

### 運営概況

#### ◆ 開館実績 ◆

	2018 年度	2019 年度
開館日	木～土曜日 10:30～18:00 日曜日 10:30～17:00	木～金曜日 10:30～18:00 土～日曜日 12:30～18:00 ※11月より土日の開館時間変更 ※3/2～3/18 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館
開館日数	193 日	186 日
入館者数	11,844 人 (一日平均/61 人)	8,800 人 (一日平均/47 人)
貸出冊数	16,216 冊 (一日平均/84 冊)	15,495 冊 (一日平均/83 冊)

#### ◆ 所蔵資料状況 ◆

資料数 17,847 冊	
児童図書	15,624 冊
成人図書	848 冊
外国絵本	969 冊
雑誌	253 冊 (6 誌)
メディア資料	153 点

#### ◆ 活動報告 ◆ ※ 参加人数は全て実数

### 1. おはなし会

毎週日曜 15 時半～16 時に、ピッコリーのボランティアグループ「ピッコリーネットワーク (以下、ピコネット)」のメンバーとピッコリースタッフで、絵本の読みかたりや手あそび、紙芝居などを開催。

※6月～休止。

●実施回数：3 回 ●参加人数：29 人



### 2. ブックトークの時間

「京都科学読み物研究会」のメンバーが担当。毎月 1 回土曜 15 時半～16 時、テーマに沿って、絵本や読み物、科学の本を紹介。

●実施回数：10 回 ●参加人数：97 人



### 3. おはなしクラブー横丁

「京都おはなしを語る会」のメンバーが担当。毎月 1 回、日曜 15 時半～16 時、ストーリーテリングを中心に親子でおはなしを聞く機会を提供。

●実施回数：10 回 ●参加人数：171 人



### 4. 工作会

#### ① 週末の工作会

子どもを対象に、ピコネット及びピッコリースタッフが講師となって土曜 14 時半～16 時に開催。身近な材料を使ったアイデア工作を中心に企画し、毎回大勢の参加がある人気の催し。※6月～休止。

●実施回数：3 回 ●参加人数：78 人

#### <開催内容>

4月「フライパンでめだまやき!」「ぱたぱたちょうちょ」

全2回 参加人数43人

5月「びよんびよん鳥」

全1回 参加人数35人



### 5. トットクラブ

乳幼児と保護者対象の活動。「子育てに何かいいもの」をテーマに、木製のおもちゃで自由に遊んだり、手あそびやわらべうた、読み語りを実施。基本的に隔週金曜 (月 2 回) ピッコリー館内で開催。

また、0・1 歳児とその保護者を対象とした「トットクラブ 01」をこども芸術大学が開催。

※6月～休止。

#### 「トットクラブ」

●実施回数：3 回 ●参加人数：19 人



### 6. その他の催し

#### 子育て絵本セミナー

京都芸術大学 こども芸術学科&ピッコリー

●実施日：8月2日 (金) 10:00～12:00

●会場：京都芸術大学 至誠館 6 階 S61

●参加人数：7 人

#### <プログラム>

1. 京都芸術大学 こども芸術学科 こども芸術サークル あんふあんずーによるペープサート。「とうさんはタツノオトシゴ」作・絵 エリックカール
2. 絵本セミナー「絵本で子育て ～保護者として、母として～」京都芸術大学 こども芸術学科 教授 前川豊子

